

1 ペンテコステの日に

1 ペンテコステの日に 主の弟子たちは
心をあわせて 祈り求めぬ

※ 御霊の神よ 昔のごとく
炎となりて くだり給え

2 風のごとき音 にわかに起こり
弟子たちの座せる 家に満ちたり

3 御霊は火のごと そこにくだりて
おのおのの上に 見よ止まりぬ

4 御霊を受けたる 主の弟子たちは
御霊に従い 主を証しせり

ただ一つの願い

ただ一つわたしの願い求めは
主の家に住まうこと 命の限り
※
うるわしき主を仰ぎ見て
主の宮に住み 主を思う ×2

聖霊の主よいまここに

F Gm D Gm F C F
聖霊の主よ いまここに
F C7 F B♭ Gm F C7 F
臨んでください 新しく
B♭ F G7 C7
砕き とかし 造り 満たし
F Gm D Gm F C F
聖霊の主よ いまここに

主の栄光宮に

主の栄光宮に主の平和うちに
主の喜びが 満ち溢れる
イエスの御名により 罪きよめられ
今 聖霊が心に住まわれる

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り ピリピ4の4~7
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り 詩篇51
3. 個人的な願いの祈り ヨハネ15の7
4. とりなしの祈り 1テモテ2の1~4/エペソ4

- ①大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ②瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ③クリスチャンが成長し、整えられ、用いられますように
=教会員が恵まれて、礼拝・祈禱会・奉仕・献金・伝道ができますように
- ④求道者が与えられ、救われますように→受洗者
- ⑤教会近隣の方が集われますように
- ⑥若い献身者が与えられますように
- ⑦ジョイキッズとユースの働きが充実しますように
- ⑧高齢の方々の方フォローが十分になされますように
- ⑨Seto Life Art Studio が用いられますように
=ウクレレ・キッズ英語・ゴスペル・モンテッソーリ教室・音楽ミサなど
- ⑩50人→100人→200人と教会が成長しますように

5. 日本と世界とエルサレムの平和を願って...

- コロナ禍からの解放・医療従事者と政治判断のため
- ウクライナとロシアのために。戦争が終わるように。

「聖霊様、あなたを歓迎します。来てくだ
さい。助けてください。私たちにはあなた
が必要です。バプテスマしてください。満
たしてください。浸してください！あなたを
待ちます！あなたを待っています！」

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂5-64 0561-48-8899
牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



心を合わせて、
ひたすら
祈をしていた。

使徒行伝1章14節

祈りの小径(こみち)

Number: 113 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

使徒行伝1章12～14節

12 それから彼らは、オリブという山を下ってエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、安息日に許されている距離のところにある。13 彼らは、市内に行き、その泊まっていた屋上の間にあがった。その人たちは、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党のシモンとヤコブの子ユダとであった。14 彼らはみな、婦人たち、特にイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちと共に、心を合わせて、ひたすら祈をしていた。

使徒行伝2章1～4節

1 五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、2 突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。3 また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。4 すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語るままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

ダビデ王・人生最大の汚点から学ぶこと

詩篇51篇10～13・17節

10 神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。11 わたしをみ前から捨てないでください。あなたの聖なる霊をわたしから取らないでください。12 あなたの救の喜びをわたしに返し、自由の霊をもって、わたしをささえてください。13 そうすればわたしは、とがを犯した者にあなたの道を教え、罪びとはあなたに帰ってくるでしょう。

17 神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をごゆるりされません。

3

黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

4

みことばの解説

ペンテコステ礼拝(6/5)は教会の誕生日であり、大宣教命令のはじまりの日です！

ペンテコステ礼拝を前に、私たちに出来ることは、心を合わせ、ひたすらに祈ること(使徒1の14)以外にありません。

そこには120名の者たちがいたと書かれていますが(使徒1の15)、それだけの弟子たちが、どのようにして「心をひとつにし」「ひたすらに」祈ることができたかを考えてみます。

それから彼らは、オリブという山を下ってエルサレムに帰った。彼らは、市内に行き、その泊まっていた屋上の間にあがった。(使徒行伝1章12・13節)

オリブ山からエルサレムに戻るには、一度「くだって」ケデロン溪谷を通り、「のぼって」エルサレム市内に入ります。そして彼らは屋上の方に「あがった」のです。これは地形的な状況における彼らの行動ですが、霊的なことにおいても、ひとつのヒントが隠されているように思いました。それは…

私たちは、低くされ、くだって、降りて、どん底を通り過ぎてゆく経験を通して、心砕かれ、ひざまずいて祈ることができるようになります。そして、一歩ずつ、また引き上げていただくかのように、聖なる山に登ってゆくのです。

元々聖人だった人は誰もいません。アブラハムもダビデも、使徒ペテロやパウロも、みんな心砕かれる挫折経験から、変えられてゆきました。

謙遜によってもたらされる一致と熱心な祈りは、作り物のそれに勝ります。もしかすると神様はあえて、私たちにそのような谷底を通らせて、神の都の二階座敷(アパ・ルーム)に導いておられるのかもしれない。

さあ、正教ヘルパー聖霊様の助けを求めて、聖霊待望の祈り会です。